図 1

■防潮堤整備の考え方（ルート）

○早期着工＆早期完了を目指すため、用地買収の伴わない官地内ルートを基本とする
○土砂供給量の減少等による砂浜の侵食が懸念されている状況や、アカウミガメの産卵など、貴重な動植物に配慮し、砂浜にはルートを設けないことを基本とする

ルート検討における配慮事項

✓冬季を中心に南西の強い季節風が吹き込むことから、保安林の伐採に伴う飛砂や塩害の助長、ならびに、今回整備する防潮堤からの土砂の飛散による背後地の人家等への影響
✓工事車両による騒音・振動、ホコリの発生などによる背後地の人家等への影響

全体区間

各ブロックの状況

(4)浜名バイパス～今切口ブロック

(3)凧上げ会場～浜名バイパスブロック

(2)中田島砂丘ブロック

(1)天竜川～馬込川ブロック

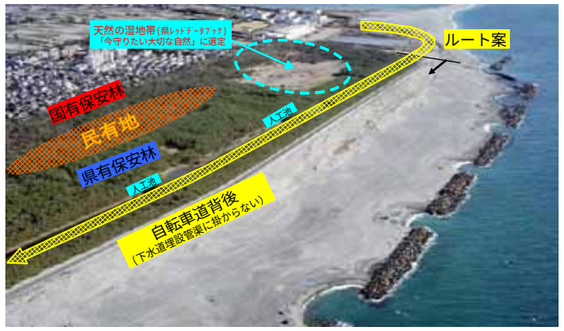


図2

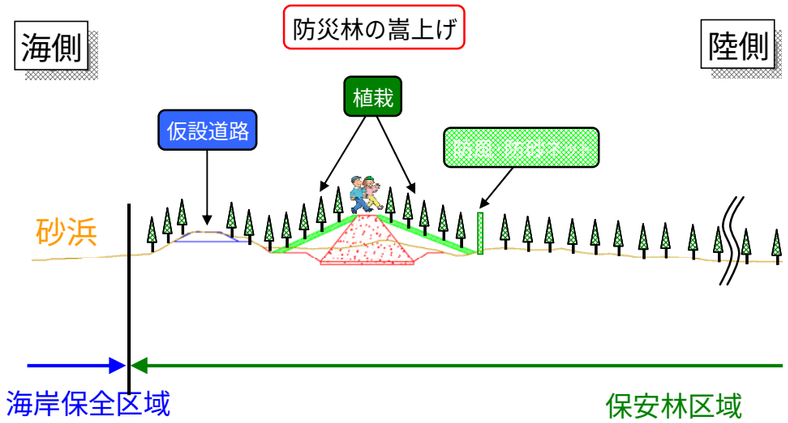
■防潮堤整備の考え方（構造）

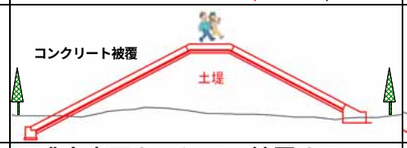
○南海トラフの巨大地震の想定結果や今後実施する安政東海地震などをモデルにしたシミュレーションにより、防潮堤の規模や構造を検討する
○景観や利用の面に加え、貴重な動植物や侵食が進む砂浜の保全など環境にも配慮し、砂浜の背後にある保安林の土堤を嵩上げする形を基本として検討する
○防潮堤には樹木を植栽し保安林機能の維持向上を図るとともに、堤防の海側は津波だけではなく、波浪や高潮に対しても十分な安全性が確保できる構造が必要である

コンセプト・考え方

○環境面・景観面に配慮し、保安林の再生が可能であること
○地震動による液状化や津波の波力に対して安定な構造であること

防潮堤の構造イメージ図



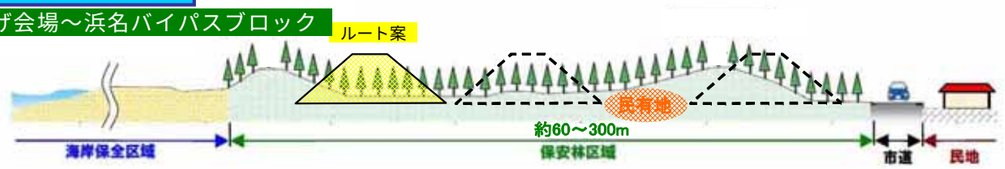
	一般的な海岸堤防（傾斜式）	ＣＳＧ堤※
基本断面		
構造の考え方	・盛土表面をｺﾝｸﾘｰﾄで被覆することにより、津波流れによる盛土の欠壊を防ぐ	・土砂とｾﾒﾝﾄを混合した CSG 堤により、津波波力等に対して安定な断面を確保する
評価	・保安林の再生ができないため、環境、景観面でマイナスとなる ・防風林の代替として防風・飛砂対策が必要となる	・抵抗性マツ等で保安林を再生することで、保安林機能の維持向上を図るとともに、景観、環境面への影響を最低限に抑えることが可能

※CSG 堤は、ダムとして近年実績が多く、東日本大震災における海岸堤防の復旧工法に採用されている。

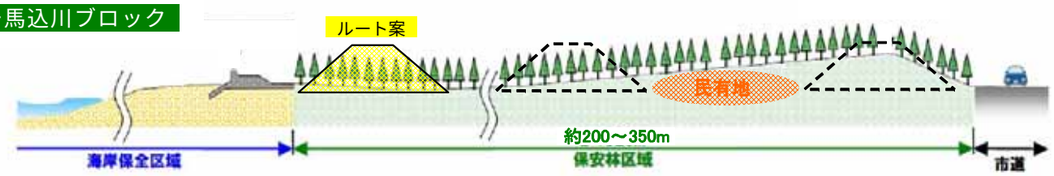
➡ CSG堤は保安林の再生が可能で、津波波力に対して安定な構造の確保が可能
浜松市沿岸域の保安林区域への整備に対し適用性が高い

横断イメージ図

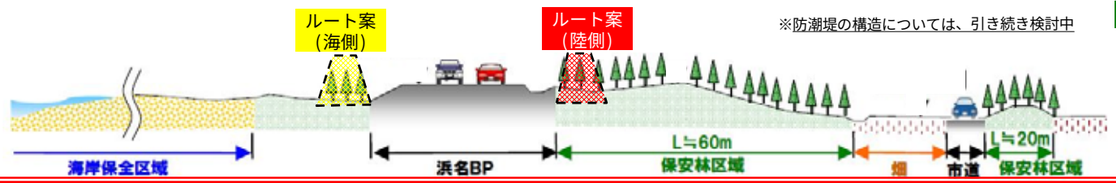
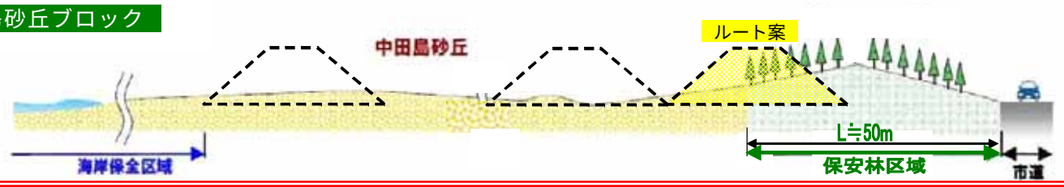
(3)凧上げ会場～浜名バイパスブロック



(1)天竜川～馬込川ブロック



(4)浜名バイパス～今切口ブロック



(2)中田島砂丘ブロック